

平成 27 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2015

Date: 2016.03.25

言語社会専攻長

日本語・日本文化専攻長 殿

To Dean of Studies in Language and Society

To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ I 講座 助教
氏名 Name	安田麗
専門分野 Academic Field	ドイツ語教育・音声学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	外国語学習の音声面における転移と干渉に関する研究
<p>①外国語学習の音声面における転移と干渉に関する研究</p> <p>第二外国語学習者を対象にし、音声面における第一外国語の転移と干渉について実態を明らかにするための音声生成実験を行った。本年度は主に、日本語を母語とし、英語を第一外国語として学習した経験を持ち、ドイツ語を第二外国語として学習している人を対象として、英語とドイツ語の発話実験を行い音声データを収集、分析した。第二外国語の学習において母語の干渉に加えて第一外国語の干渉も見られる可能性が高いことが先行研究では明らかにされているが、日本人学習者を対象にした十分なデータはいまだ存在しない。そのため、今後の研究においても活用できるよう充実した音声データ資料の作成をおこなっている。音響分析では主に、英語とドイツ語における語末閉鎖音の有声音と無声音の実現に焦点をあて調査している。現在までに分析を行った音声データでは、日本語を母語とするドイツ語学習者のドイツ語の発音は、語末閉鎖音の無声化が不完全であること、さらに英語の発音では語末閉鎖音の有声音と無声音の区別が明瞭ではないことが観察された。これは、ドイツ語の発音では英語の影響を受けていること、英語の発音ではドイツ語の影響を受けていること、つまり交差言語的な干渉を示唆するものであると考える。</p> <p>②ドイツ語における無声化母音の知覚に関する研究</p> <p>本年度は日本語を母語とするドイツ語学習者を対象に聴覚実験を実施した。聴覚実験では、ドイツ語の発音において、母音が無声化している音声と無声化していない音声の聞き分けているのかどうかを調べた。その結果、日本語を母語とするドイツ語学習者はドイツ語の発音において、母音が無声化しているか無声化していないかをほとんど区別していないことがわかった。2013 年にドイツ語母語話者を対象に行った同様の聴覚実験の結果と異なることがわかった。</p>	